

♪♪♪ いい歌、いい町、いい自然 ♪♪♪

広報

あかいけ

No. 463

2001. AUG

8

町議会だより

●五角定例議会の内容は?



開祖金尊楷と故郷泗川

●特集 上野焼のルーツを探る／日韓交流事業

涼しげな清流に誘われて…上野峠「白糸の滝」

豊臣秀吉が野望に燃え、二度にわたって朝鮮に出兵した

文禄・慶長の役。

七年間にも及ぶ無益な戦役は、巨額の軍資金と多くの兵の命を失い、そして、朝鮮半島の人々に塗炭の苦しみをあたえました。

しかし、撤退時に多くの陶工を伴つたことで、当時優秀な技術を持っていた彼らが、西日本・九州各地で窯を起ことすることになります。文禄・慶長の役が別名「やきものの戦争」と呼ばれる所以です。唐津焼・萩焼・薩摩焼・高取焼・そして上野焼がその代表とされています。

上野焼の基礎を築いた尊楷。約四〇〇年前のことで当時の史料も乏しく、その多くが「謎」とされていました。

しかし、上野焼四〇〇年祭を間近にひかえた今、少しずつ歴史の扉が開かれてきたのでした…。

●特集 上野焼のルーツを探る／日韓交流事業 開祖 金尊楷と故郷 沢川



金尊楷が居住していたと伝えられる沢川市花田の里。山の中央部、塗んだ所が1900年頃まで十時と呼ばれていた場所。上野喜蔵（尊楷）の息子は、その故郷十時郷にちなんで、十時姓を称したと伝えられている…。

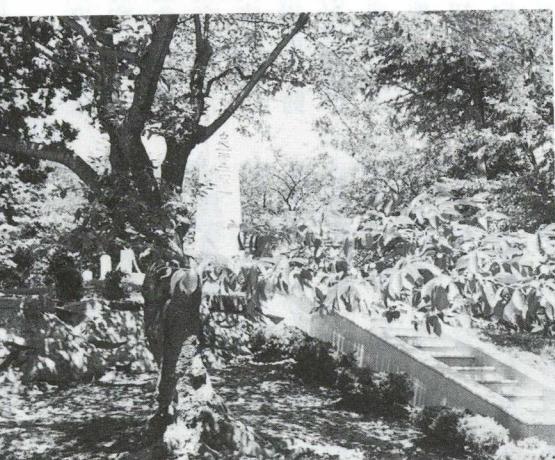
少しづつ開かれた歴史の扉

上野焼の由来の多くには「文禄・慶長の役の際に、釜山城主尊益の子尊楷が、加藤清正公に従つて帰化し…」と記されています。しかし、実際には釜山城主に尊益という人はなく、韓国に「尊」という名前はありません。

「はたして、尊楷の出生はどこなのか…」上野焼四〇〇年祭実行委員会では、式典の趣旨でもある「先人陶工の勞を讃える」意味からも、この問題はぜひ解決したいと考えています。

「上野焼の開祖、陶祖といわれる尊楷については、当時の詳しい記録が残つておらず、謎のベールに包まれたままでした。現存する史料は、いずれも江戸時代後期または明治時代初期に記されたものばかり…。しかし昨年、韓國の方から尊楷に関する情報が、その子孫にあたる上野焼窯元の十時さんと渡さんに寄せられたのでした。

そのいきさつは、韓国の作家・鄭棟柱さんと澤川文化新聞社社長・金南珍さんが、井戸茶碗（朝鮮産の国宝級の茶碗）の研究を進める中で、韓国の大「澤川」と「尊楷」の名前が浮上してきたというものでした。



◆澤川市船津公園にある忠靈碑。文禄・慶長の役の際に、この公園に建っていた船津里城は、堅城であったため激戦を極めたという。忠靈碑はその犠牲者の慰霊のため建てられた。



特集／開祖金尊楷と故郷澤川



上野焼の由来を考察

金尊楷（上野喜蔵）について、上野家の先祖付などには「明王神宗の頃、朝鮮國釜山海の城主を尊益と云う、その子を尊階と云う、神宗万暦四十二年、加藤主計頭清正朝鮮より凱陣の時日本に移り來り、暫く肥前の国唐津に逗留す、その後尊階朝鮮に渡り、高麗の陶法を伝えて再び帰朝す、慶長七年、三斎忠興、豊前の国入封の節、俸禄を与え家人となし、同國上野郷にて陶器を製せしむ、則ち郷名を家名に免じ、尊階を革め上野喜蔵と称す」と記されています。

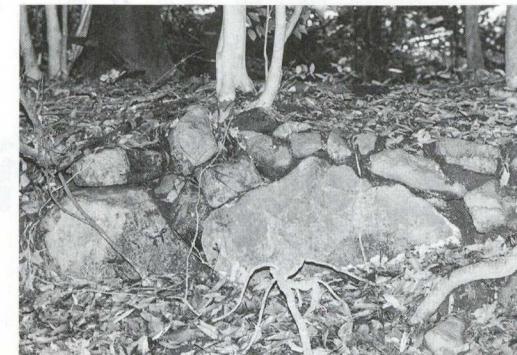
すなわち尊楷は釜山海城主の子で、加藤清正に従って日本に居住し、その後、もう一度朝鮮に渡って製陶技術を身につけ、上野で作陶したというのですが、城主の子が短期間で陶技を身につけたというのは、理解しにくいといわれています。

また別の記録には、尊楷は「朝鮮泗川縣十時郷に住す……豊前小倉の城主、毛利壱岐守勝信に従いて帰化し」とまったく別のが記されています。

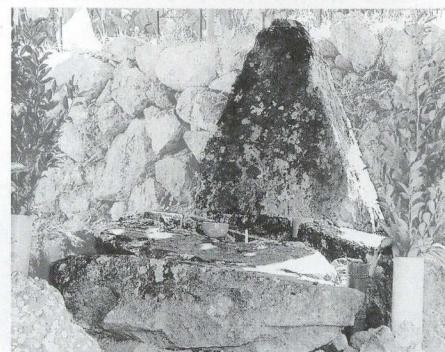
今回、泗川市から寄せられた情報をもとに考えると、尊楷が泗川出身ならば、文禄・慶長の役で朝鮮半島の西、泗川方面に出兵していた毛利（壱岐守）勝信に従い日本に渡ったと思われます。加藤清正は主に朝鮮半島の東方向を進軍しました。

そうなると、上野焼の由来は「文禄・慶長の役の際、毛利壱岐守勝信に招致された朝鮮泗川縣十時郷出身の李朝陶工金尊楷を細川忠興が招き…」となりそうです。

赤池町史にもこれに近い記述がなされています。



◆金の口窯跡付近には陶工が居住していたと思われる屋敷跡の石垣がある。



◆熊本県八代市平山の窯跡（熊本県指定史跡）上部にある上野喜蔵（金尊楷）の墓。墓石には「覚源院本善宗清」と記されている。（資料提供：八代市教育委員会）

楷（喜蔵）に関する記録はいずれも江戸時代後期または明治時代初期の記録で、どれだけ正確か分からず。確固たる史料も見られません。

唯一、当時（慶安二年・一六四九）の記録に、正保二年（一六四五）三斎が死去すると喜蔵は、その日に出家して扶持などを返上して宗清（秀清）と号し、承応三年八月六日に、八九歳で亡くなつたと記されています。

その史料の少なさから依然として謎の部分が多い上野焼開祖・金尊楷。ただ、ここで推測できることは、彼の壮絶な人生です。

生まれ育った泗川での作陶、し烈を極めた日本の侵攻、荒波を越えての渡日、途方に暮れた唐津滞留、忠興との出会い、上野での開窯、肥後

への転居、忠興の死と出家…。激動の時代背景にもたらされた波瀾万丈の時を過ごしたのではないかと思われます。

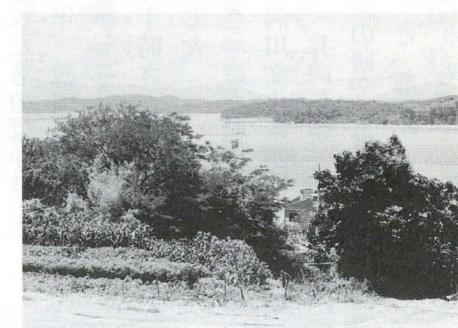
そして、細川忠興の死後、即座に出家したことから、尊楷（喜蔵）がいかに忠興を慕っていたか、その強い主従関係を越えた絆のようなものがあうかがえます。

上野焼四〇〇年祭では、伝統を築き上げてきた尊楷をはじめとする先人陶工の勞を大いに讃える式典を開催する予定です。

上野喜蔵（金尊楷）の墓は、現在八代市平山の窯跡（熊本県指定史跡）の上部、ミカン畑の傍らにあります。激動の時代に生きた開祖は、そこで静かに眠っています…。



金尊楷（上野喜蔵）が上野の地で開窯した釜の口窯跡。上野焼の原点というべき史跡。伝統ある国焼としての基礎は、この時期に築かれた。約45Mにも及ぶ大きな連房式登り窯跡がある。



◆泗川市船津公園から眺める船津浜。金尊楷は、この浜から船出したといわれている。

◆花田の里にある窯跡からは、多くの陶片が出土している。



駆け抜けた人生 激動の時代を

にちなんで上野喜蔵高國を名乗ったといいます。

喜蔵（尊楷）は、細川氏から六人扶持を拝領し、荒仕子（生産を手伝う人）六人を与えられ、やきものは値段を決めて上納し、代価は米で支給されたと伝えられています。

また、たびたび小倉に呼び出され、殿様の御前で陶器を製し、もと御船頭だった宇介が絵付けを行い、しだいに繁盛して弟子百人がいたとも記されています。

しかし、前頁で述べたとおり、尊

楷は慶長三年に来日し、当初は唐津領内に滞在したといわれています。その後、関ヶ原の戦（一六〇〇）で大功のあつた細川忠興が、丹後国（京都府）から豊前八郡、豊後二郡にわたる三十六万石の豊前國小倉藩主になつた慶長七年（一六〇二）、金尊楷は、小倉入城と共に招かれました。そして、上野郷に地を与えたと、郷名

細川氏が寛永九年（一六三二）肥後（熊本県）に移封されると、喜蔵（尊楷）は隠居していた三斎（忠興）に従つて八代に居住し作陶しました。八代焼の始まりです。八代でも豊前時代と同様に扶持などを与えられたようです。

泗川市と赤池町 互いの交流に期待



本日は大変お忙しい中、市長をはじめ、多くの関係各位のご出席をいただき、心から感謝申し上げます。

今日は、上野焼のルーツであります金尊楷先生の生誕の地に参りました。歴史の深い当地を訪問し、来年開催の上野焼400年祭を是非成功させたいと思っています。

赤池町は人口約1万人の小さな町ですが、上野焼の窯元が多く点在しています。

今日は、当地の文化と歴史について、現地を観察しながら学びたいと思います。

赤池町は今、上野焼400年祭を成功させるために全力をあげて準備を進めているところです。上野焼400年祭の際には、市長をはじめ関係各位に是非ご来町いただきたく、お待ち申し上げる次第です。

最後になりましたが、ご臨席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念して、ご挨拶といたします。

ありがとうございました。



暑い中にも関わらず、本日、泗川市を訪問くださいました水永町長はじめ議員の皆様、随行の皆様を心より歓迎いたします。

この度、作家である鄭先生と泗川文化新聞社の金社長の調査により古窯跡が発見され、その事が知られるようになりました。

貴町が探していた金尊楷の故郷に、一番近い地域として評価されているようです。

これからは、お互いの訪問と観光など、交流の機会が増えるよう希望します。

今回の訪問期間が短く、また泗川市も梅雨の期間で大雨が降り、古窯跡は見られないようですが、貴町の視察調査が順調に進展することをお祈りします。

再度、泗川市を訪問くださいました皆様に感謝の意を表し、皆様のご多幸を心より祈念いたします。

ありがとうございました。



2001.7.3 in Sacheon

泗川市と赤池町の 交流経過

泗川から日本に渡った金尊楷について研究を進めていた韓国の作家・鄭さんと泗川文化新聞社社長・金さんは、上野焼窯元の十時開甫さんと一緒に渡久兵衛さんを訪ね、昨年七月に来日しました。

その後、お互いの情報交換が進み、十時さん渡さんが昨年十一月に泗川市に招かれます。泗川市は二人を大歓迎し、この事は韓国のテレビ・新聞・雑誌などに取り上げられました。一方、開祖尊楷について以前から調査していた上野焼四〇〇年祭実行委員会は、十時さん渡さんの視察報告を受け、泗川市に注目。三月に永会長以下九人が、視察のため渡韓しました。しかし、現地での日数も限られていたため、十分な調査はできませんでしたが、現時点で、あらゆる要素を考慮した結果、尊楷の出身地は、ほぼ泗川市であろうという意見にまとまりました。

七月三日に、町議会をはじめ会長・事務局長が泗川市を訪問。手厚い歓

その後、お互いの情報交換が進み、十時さん渡さんが昨年十一月に泗川市に招かれます。泗川市は二人を大歓迎し、この事は韓国のテレビ・新聞・雑誌などに取り上げられました。一方、開祖尊楷について以前から調査していた上野焼四〇〇年祭実行委員会は、十時さん渡さんの視察報告を受け、泗川市に注目。三月に永会長以下九人が、視察のため渡韓しました。しかし、現地での日数も限られていたため、十分な調査はできませんでしたが、現時点で、あらゆる要素を考慮した結果、尊楷の出身地は、ほぼ泗川市であろうという意見にまとまりました。

七月三日に、町議会をはじめ会長・事務局長が泗川市を訪問。手厚い歓



四〇〇年祭で予定する 日韓交流事業

上野焼四〇〇年祭を開催する二〇〇二年は、日韓両国がサッカーのワールドカップを共催するという重要な年。両国はこの年を「日韓国民交流年」とし、文化・スポーツ・青少年・産業・観光など、あらゆる分野での交流を推進しています。

上野焼四〇〇年祭でも、韓国泗川市、韓国領事館（福岡市）、福岡県国際交流センターの協力を得ながら、日韓交流事業を積極的に展開すべく、準備を進めています。

現在、実行委員会では、①記念碑の設置②泗川市花田の里及び赤池町上野の里ふれあい交流会館敷地内の二力所③韓国物産展④韓国の特産品紹介⑤日韓交流音楽会（仮称）⑥韓国の伝統的音楽と日本の伝統的音楽の紹介⑦韓国泗川市上野焼展（未定）などの日韓交流事業を検討中です。

迎を受け、上野焼四〇〇年祭の成功と、お互いの交流を誓いました。



上野焼おかみさん会 視察研修

上 野焼の窯元を訪ねると、まず、おかみさんが、優しい笑顔で出迎えてくれる…。それが、よくあるケースですよね。

やきものづくりは男性が、そして販売は女性が主体の傾向にあるのが現実です。品物の魅力に加え、見やすい陳列と効果的な接客ができれば、売り上げが伸びる事、間違ひありません！。

そんな中、各窯元の女性で構成する今年3月に発足したばかりの「おかみさん会」が、6月22日に各店舗を視察し研修会を行いました。

上野焼400年祭に向けて、接客技術を向上するのが目的です。

商業施設コンサルタント内村明子さんを講師に迎え、参加した15人は真剣な表情でアドバイスを受けていました。

「個性を大事にしながらレベルアップした陳列ができると良いですね。こうして、おかみさん同士で交流や情報交換をすることは、すごく大切なことです」と話す内村さん。



今後「おかみさん会」では、他のやきものの施設や窯元の視察も検討中だそうです。

「おかみさん会」の始動により、上野焼の魅力がまたひとつレベルアップしたように感じました。今回の研修の成果が期待されます。

今 回参加して良かったことは、他の窯元さんの展示場が見れたことと、同じ立場の方々とお話ができたことです。今まで他の展示場は見たことがなかったので、店づくりや陳列について大変参考になりました。どの展示場も立派なので、うちの展示場を見られる時は、とても緊張しました。



第2回 上野焼400年祭実行委員会を開催

六月十一日役場会議室で、第二回上野焼400年祭実行委員会が開催されました。この日、実施部会全体の経過報告と、上野焼展実施部会（四回）、ハード事業実施部会（四回）、イベント企画実施部会（七回）の活動報告が行われました。上野焼展、記念講演、陶器まつり、日韓交流、上野の里ふれあい交流会館、記念碑、広告塔などの進行状況を確認しました。

なお、泗川市から觀光係長の盧さんが、金尊楷についての説明を行う予定でしたが、急な公用のため、来日できませんでした。



◆韓国の新聞に掲載された記事の一部。昨年11月、十時開甫さんと渡久兵衛さんの泗川市訪問は、地元で大きな話題となった。

上野喜蔵（尊楷）は、八代に移る際、次男の十時左衛門と娘婿の渡久左衛門を上野に残し、上野焼を継承させた。

開祖金尊楷を想う

はじめて花田の里に立ったとき、そこが知らない所ではなく、むしろ親しみを感じました。地元の方々に大歓迎を受け、窯跡で祭壇を設けていただき、私は感謝の意を表しました。そこで、大きな感動とともに、新たな刺激を受け「井戸茶碗を完成させたい」という強い気持ちを確信しました。そこで、大きな困難を乗り越え、上野焼の基礎を確立した尊楷の時代。釜の口

窯の上野焼は、飾り気やむだなものがない、鄙びた味わいのある三斎好みを色濃く表したものでした。その偉大な先祖でも、当時求められていた井戸茶碗を完成できませんでした。だからこそ、井戸茶碗を作ることは、おそらく出来ないでしょう。ですから、温故知新的精神で、平成の井戸茶碗づくりに、残りの一生をかけてみたいと思っています。



※ 井戸茶碗：昔から茶人に珍重され、茶器として最高のものとされる。特に「喜左衛門井戸」（国宝）が有名。



十三代目
十時 開甫さん（十時窯）

花田の里を訪ねた際、先祖の故郷をほぼ確認でき、感動で胸がいっぱいになったのを覚えていました。窯跡は四〇〇年前へとタイムスリップさせ、陶片が当時の生活を語りかけてくれました。

「ここが上野焼の原点であり、ルツである。そして、この場所があり尊楷がいたから今の上野焼がある」とそう思うと、先人達が築いてきたものを大切にしなければならないと、

改めて感じました。

わたしたちは、四〇〇年の歴史とともに、着実に後世に引き継いでいかなければなりません。五〇〇年、六〇〇年後もこの伝統が引き継がれることを大変うれしく思っています。今回、泗川からの情報によつて、上野焼四〇〇年祭を目前に、こうして上野焼のルツが、ほぼ明らかにされたことを大変うれしく思っています。

【議案37号】平成13年度赤池町老人保健特別会計補正予算…可決。

既定の歳入歳出それに6千158万5千円を増額。予算総額は15億6千849万9千円です。

【議案38号】赤池町課設置条例の全部を改正する条例の制定…可決。

行政組織の機構改革に伴う条例制定です。

【議案39号】赤池町行政財産の使用料の制定について…可決。

赤池町行政財産の使用料の徴収に関する条例制定です。

【議案40号】赤池町重度心身障害者医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例の制定について…可決。

老人保健法の一部改正に伴う条例の改正です。

【議案41号】田川郡町村公平委員会共同設置規約の一部を改正する規約の協議について…可決。

【請願2号】緊急地域雇用特別交付金事業の継続を国へ求める請願書…採択。

【請願3号】JR不採用問題の早期全面解決を求める意見書に関する請願…採択。



町議会だより

平成十三年六月定例議会が、六月二十五日から二十八日までの四日間の日程で開かれ、議案五件、請願二件を慎重に審議し、最終本会議で採決されました。

台所や風呂で使用する化学洗剤などがそのまま水路から河川に流れ込み、九州でワースト3といわれる彦山川の水質汚濁の原因となっています。さらに、この河川は水道の水源にもなっているのです。また、本町においてはニュータウン地区の400世帯、町の約1割弱の世帯が、庁舎横の終末処理施設で地域下水を有している次第です。

法の基の平等、また、同じ町民として文化的な生活を営むという観点からも、是非ともこの事業を推進していただきたいと思います。

田川市郡の広域下水道計画も未だ先行きの目途が立たない現状に思われます。再建が終了した今、環境問題からも、快適で文化的な生活を営むという事業に取り組むべきではないでしょうか。

以上、この事業の今後の推進について町執行部の方針を伺い、格段の配慮をお願い申し上げる次第です。

答
(水永町長) 只今質問の合併処理浄化槽設置整備事業について、お答えします。

赤池町は平成3年度から平成14年度

まで再建期間中で厳しい財政事情の中、様々な事業を行ってまいりましたが、何分にも新規事業については、国・県の許可を受けなければなりませんでした。ここ2年程前から、田川市郡1市8町で広域下水道の設置について取り組んできましたが、川崎町、添田町がこの事業に参加できないということが半年前に決定いたしました。これを受けまして、田川市長からの提案で、田川市、下田川4町で実施をすることでの、今検討していますが、これも先行き不透明なところがございます。実施をするとしましても様々な問題があり、大変難しい事だと思っています。

こうした状況下で今、本町でも個人が家を新築し、この合併処理浄化槽を設置しております。再建も終了しましたし、平成14年度より実施に向けて関係課と協議中であります。

今後は年次計画を作成し、国・県とも十分協議をしながら実施してまいりたいと思っております。

現在64世帯の方々がすでに設置済とうことであります。設置済の方々に対するこの事業の適用につきましては、補助金等の制度上困難性がありますので、この点につきましては、理解を願います。

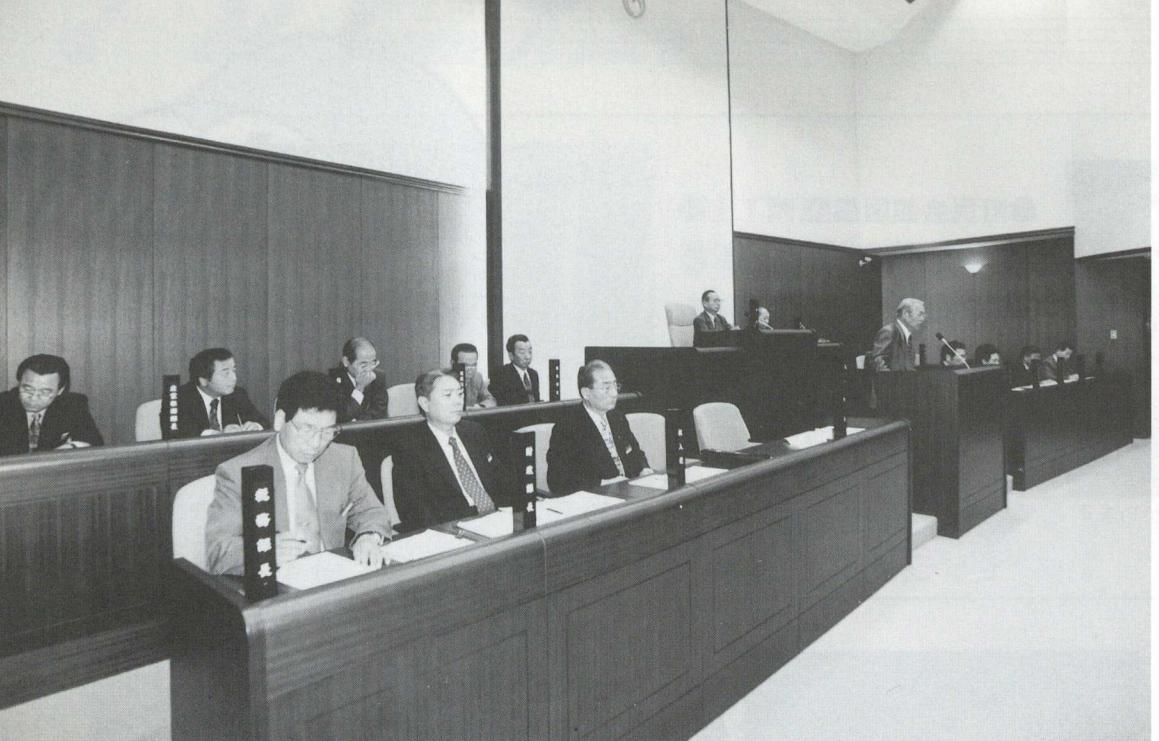
今、世界中で環境問題が大きくとりざたされています。本町でも環境問題の観点からも、今後こういった事業の推進については、積極的に取り組んでいきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

その前に、3月定例会で町長が表明されましたように、当初の計画より2年短縮し平成12年度まで財政再建団体から脱却見込みであるということは、執行部・職員の努力はもちろん、議会並びに町民一人ひとりの理解と協力の賜ものであります。また、みなさんが意識の改革に目覚めたことも少なくないと思います。また、みなさかからず感じております。

さて、町長もご存じの事と思いますが、合併処理浄化槽設置整備事業という事業があります。

この事業は、各家庭が合併浄化槽を設置した場合、その工事費の40%を町が設置者に補助するもので、その財源は、国・県・町が3分の1ずつ負担します。さらに町負担の8割が特別交付税で措置されるというものです。つまり、設置工事費を150万円とする、個人が90万円負担し、町は60万円を負担しますが、うち40万円は国・県の補助金で、さらに町負担の20万円の8割、16万円が特別交付税で措置されるので、純粋な町の負担は4万円ということになります。

現在、赤池町内で合併浄化槽を設置している家庭は64世帯、単独浄化槽が221世帯と聞いています。この数字からも分かるように、まだまだ合併浄化槽は普及していません。





インターネットは楽しい！ノートパソコンに釘付けです

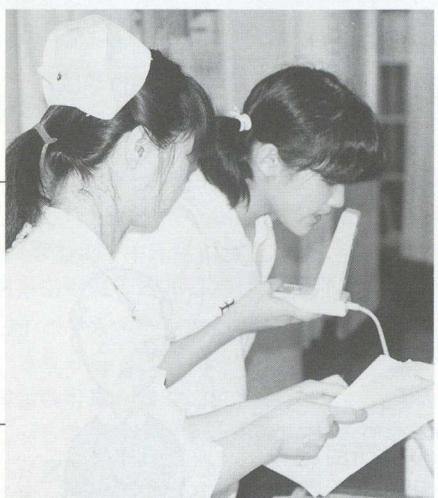
●IT講習会
360人を対象に
18講座がスタート

十八講座三六〇人を対象にしたIT講習会が、六月二十五日からスタートしました。町民会館会議室では、受講者二〇人が、パソコンの基本操作・文書作成・電子メールの送受信・インターネットなど、講座に空きがあるようですのでお気軽に教育委員会社会教育課までお申込みください。受講料は無料（資料代一千円自己負担）です。



●町民会館図書室
絵本を読む会が
ボランティアで整理

絵本を読む会「ぶらんこ」のみなさんが、六月から七月までの間に、町民会館図書室の蔵書を整理しました。町の財政再建に取り組む姿がマスコミで報道されて以来、本の寄贈が急増した町民会館図書室。整理に困っていたところ、ボランティアで協力していただきました。



「患者さんをお呼びします…」(町立病院)

●赤池中学校総合的な学習の時間
3年生183人が
17カ所の職場で学習

7月6日に、赤池中学校の職場体験学習が行われました。3年生183人は、川食・セブンイレブン・杉山製作所・平川建設・ビークル上野・慶寿園・河野美容室・かづみ美容室・郵便局・消防署・四保育所・町立病院・役場の17カ所のうち興味がある職場で仕事を体験。後日提出された感想文には「社会人は甘くない」と書かれたものもあったとか。将来に向け貴重な体験をした一日でした。



一日お百姓さん気分です



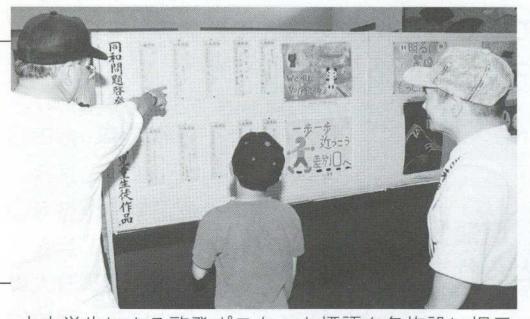
天井に届きそうな10本の笹飾り

●上野小学校音楽集会
保護者ら80人を招待

上野小学校の音楽集会が七月七日に行われました。児童会の企画進行で、保護者と地域のみなさん八〇人を招待し開催。七夕の笹飾りが会場を彩る中、各学年が日頃練習した計十八曲の合唱や合奏を披露しました。



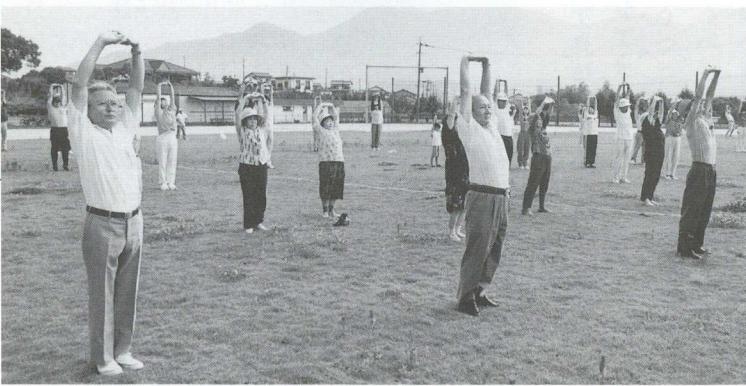
赤池町で初めて三家族が調印式が7月16日に役場会議室で行われました。この協定は、農業における家族内での役割分担などを取り決めた農業経営の向上を目的としたもので、今回、大森・木村・水永さん夫妻が、町長ほか3人の立会のもと協定書に調印しました。



小中学生による啓発ポスターと標語を各施設に掲示

●同和問題啓発強調月間
部落差別のない社会を目指して

一日も早い同和問題の解決を目指して、七月の同和問題啓発強調月間に、啓発事業を中心に、啓発歩こう会が七月一日に開催され、町内全域四ブロックに分かれタスキとのぼりを行なぎました。また、七月十五日に上野小と町民グラウンドでふれあい体操会が開催され、二〇〇人が参加しました。今後町は、強調月間だけにとどまらず、年間を通じた啓発活動を推進していきます。



中国式の健康体操「練功」で汗を流したふれあい体操会



部落差別のない社会を目指してタスキをつないだ歩こう会

●保育所田植え
4園合同の田植えで
泥んこ体験

町内四保育所合同による田植えが、六月二十一日に行われました。年長児七十六人は田んぼに足を取られながらも、列をそろえて語りかけながらも楽しくいました。愛情込めて植えた苗。秋の収穫がとても楽しみです。

●家族経営協定調印式
農業経営効率化
を目指して調印



●三世代スポーツ大会
グラウンドゴルフで
150人が異世代間交流

三世代スポーツ大会が七月十五日に、町民グラウンドで開催されました。一五〇人が参加し小中学生と大人、高齢者がグラウンドゴルフを通じて交流しました。大会の結果は次のとおりです。

●小学生の部	1位 藤村若菜	2位 太田大樹
●中学生の部	1位 池本直幸	2位 池本邦賀
●高齢者の部	1位 阿世樹	2位 横崎千津加
●一般の部	1位 池本直樹	2位 伊丹利行
●高齢者	1位 沼口久則	2位 高嶋潜
●高齢者	1位 錦昭典	2位 名嶋健

ゴール付近が一番難しいんです



まちの話題についての情報がございましたら、役場企画財政課まちづくり係TEL 28-2004 内線234までお知らせください。

町有地の売却について

●売却物件

地 目：宅地
所在地：大字赤池字松本 551-29
面 積：611.61 m² (185.01 坪)
価 格：最低価格 5,550,360 円
(坪当たり 30,000 円)

購入希望者は、平成 13 年 8 月 31 日までに申し込みください。

希望者が複数の場合は、競売となります。

登記等に係る費用は購入者の負担となります。

申し込みは、赤池町立病院事務室まで書面にて直接申し出てください。

問い合わせ先：赤池町立病院 28-2083

町職員の人事異動

■課長■

総務課長 木月 政弘 (税務課長)
企画財政課長 中原 和義 (町立病院事務長)
税務課長 長谷川 孝 (同和対策課長)
住民課長 北川 勝 (総務課長)
保健課長 宮崎 春美 (福祉健康課長)
同和対策課長 柴田 武巳 (産業振興課長)
産業振興課長 沼口 富生 (産業振興課国土調査係長)
町立病院事務長 安武 憲明 (財政課長)

■係長■

税務課町民税係長 藤堂なるみ (税務課賦課係長)
税務課固定資産税係長 立花 繁樹 (税務課徴収2係長)
税務課収納対策係長 浦田 晴孝 (税務課徴収1係長)
住民課環境衛生係長 長野 承人 (福祉健康課健康衛生係長)
保健課健康づくり係長 太田みのり (福祉健康課健康衛生係)
産業振興課国土調査係長 早麻 正秀 (産業振興課国土調査係)

■係■

総務課管財係 永末 桂子 (同和対策課赤池隠保館)
税務課町民税係 深見 健児 (税務課賦課係)
税務課固定資産税係 中島 恵子 (税務課賦課係)
住民課環境衛生係 犬丸 且久 (福祉健康課健康衛生係)
保健課介護係 小松 卓美 (福祉健康課福祉係)
保健課健康づくり係 中島貴美子 (福祉健康課健康衛生係)
保健課健康づくり係 小畠 弓佳 (福祉健康課健康衛生係)
保健課国保年金係 木村 長徳 (税務課徴収2係)
同和対策課住宅係 高本 武志 (税務課徴収1係)
産業振興課商工観光係 倉石 勝朝 (社会教育課同和教育係)
学校教育課同和教育係 小松 弘子 (福祉健康課健康衛生係)

※ 行政機構順。その他の機関改革による異動は掲載していません。

県内に所在する既存団地の空家住宅 (対象団地、戸数の詳細については募集案内書に掲載)

募集中の団地で配布

募集案内書配布および申込

役場同和対策課住宅係で配布

●夏のイベント情報● 行事の詳細につきましては、赤池町教育委員会 社会教育課 TEL 28-4100まで、お問い合わせください。

成人式

とき 8月12日(日) 10時
ところ 同和対策中央研修所

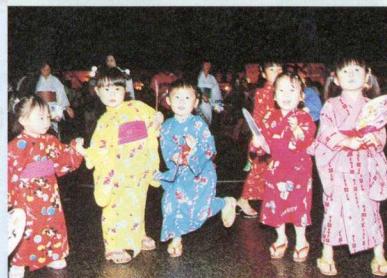
該当者 昭和56年4月2日～昭和57年4月1日までの間に生まれた人で赤池町に住民登録されている人、および赤池中学校卒業生。



ふるさとの「夏」あかいの「夏」を感じるイベントに、子ども達も大喜び。あかいの夜空を焦がす花火は圧巻です。花火は9時頃からの予定。
(写真は昨年の様子)



なつかしい旧友たちとの再会が待っています。お気軽な服装でご参加ください。赤池中卒業生なら町外在住者でも参加できます。(写真は昨年の様子)



とき 8月17日(金)
19時 雨天中止
●炭坑殉職者慰靈祭 18時30分～

ところ 赤池町民会館前 広場
内 容

赤池小唄・炭坑節をはじめ
の各地区の盆踊りが披露さ
れます。露店も数多く出店。
フィナーレを飾る花火が夜
空を鮮やかに彩ります。

町民ふれあい盆踊り

近は、田川郡内でもこのようなスタイルが増えてきました。赤池町では、財政再建で得た教訓を生かして、「企画財政課」になりました。最近は、田川郡内でもこのようなスタイルに転落して二十七年間、ようやく赤字を脱却することができました。この赤池町に「行政改革の進め方」や「財政再建の苦しみ」と「そこで得たもの」を学ぼうと全国各地から議員や職員、住民の皆さんのが引っ切り無しに訪れていました▼最近は、そうした自治体の多くが平成十七年度までの市町村合併を模索しています。田川地区でも市町村合併の勉強会が始まっています…。(中原)

旋律

MELODY 先月の「広報あかい」で紹介しましたが、七月から町の行政機構が大きく変わりました。今回の機構改革では、従来の「福祉健康課」を二課に分け、戸籍やごみ処理など住民生活に密着した業務を行う「住民課」と、高齢者福祉や健康づくりを行う「保健課」を設置しました。他に係の異動もあり、「管財係」が総務課に、「まちづくり係」が企画財政課に、「同和教育係」が学校教育課に変わりました▼課名が変わったのが「企画財政課」です。以前は単に「財政課」と呼ばれていましたが、今回は「財政係」と「まちづくり係」(企画係)がくつづいて「企画財政課」になりました。最近は、田川郡内でもこのようなスタイルに転落して二十七年間、ようやく赤字を脱却することができます。この赤池町に「行政改革の進め方」や「財政再建の苦しみ」と「そこで得たもの」を学ぼうと全国各地から議員や職員、住民の皆さんのが引っ切り無しに訪れていました▼最近は、そうした自治体の多くが平成十七年度までの市町村合併を模索しています。田川地区でも市町村合併の勉強会が始まっています…。(中原)